

あなたの手に広島を取り戻し、広島とあなたを守る“ヒロシマ庶民革命”

広島瀬戸内新聞

2024年8月号外

社主・さとうしゅういち

8月1日発行

1996年4月1日創刊

広島市安佐南区中筋1-18-27-203

発行人 さとうしゅういち(佐藤周一)

090-3171-4437

<http://hiroseto.exblog.jp>

hiroseto2004@yahoo.co.jp



パレスチナ代表を平和記念式典に！ 11524筆のオンライン署名を市長宛に提出

2024年8月6日の平和記念式典には、ガザ地区で虐殺を続けるイスラエルは招待される一方、「被害者」のパレスチナの代表は招待されていません。これに対して、駐日パレスチナ代表部から広島市に抗議が行われています。また、筆者個人としても、1994年広島アジア大会に参加、また核兵器禁止条約に加入して広島市の平和活動に協力していただいているパレスチナが招待されないのはおかしい、と考えています。こうしたことから、筆者は7月18日、オンラインで「2024年の平和記念式典にパレスチナ国代表を招待してください」という松井一實・広島市長と市議会議長あての署名を呼びかけ、30日13時頃までに11524名のご賛同をいただきました。30日16時半、松井一實市長あてに平和記念式典担当の広島市市民活動推進課の田中係長に提出させていただきました。

意見交換の中で、パレスチナについては「日本政府が承認している」か「核兵器禁止条約に入っていない」のどちらの招待基準に該当しないということを伺いました。朝鮮＝金正恩氏＝については核兵器禁止条約に入っていないから招待するというわけです。

確かに広島市としてはそういう基準で招待していても、結果として、イスラエルは招待し、パレスチナは招待しないという風に外部からは見える。そして実際にパレスチナ代表部が激怒していたわけです。

筆者は「長崎はパレスチナを招待しているのだから、長崎にできることが広島にできないはずはない、最後まで、可能性をあきらめないでいただきたい」とお願いしました。

また、1994年のアジア大会の時はパレスチナも参加し、アジアの国を一国一館運動で応援していた。しかし、G7広島サミットを契機に米欧にばかり目が向いている傾向もあるのではないかと。それは今後、自治体としての戦略的にもまずいのではないかと。というお話もさせていただきました。

今後、9月議会会期中に「請願」の形で広島市議会にも提出する予定です。引き続き、ご署名をお待ちしております。すでに広島市長宛に提出した分と合わせて提出させていただく予定です。今後、市長をチェックする議会できちんと議論をしていただくことを望みます。



広島市長 松井一實 様
(市民活動推進課)

広島市民含む地球上の市民一同(別紙賛同署名の通り)

2024 年の平和記念式典にパレスチナ国代表を招待してください

私たちの心に深く刻まれているあの日、世界で初めて核兵器による攻撃を受けた広島。戦争の悲劇を経験した街の市民として、私たちは、同じく悲劇が起きているパレスチナのガザ地区の現状に心を痛めています。

パレスチナにおける二国家共存を定めたいいわゆるオスロ合意の翌年の 1994 年、広島アジア大会にパレスチナ代表が参加しました。広島広域公園での開会式に現れた彼らの姿に感動しました。

しかしあれから 30 年。イスラエルによる侵略行為は止まず、2023 年には「10.7 事件」が起こり、その後、イスラエル軍による虐殺が続いています。

ICJ(国際司法裁判所)は 7 月 19 日、イスラエルによるパレスチナ自治区ヨルダン川西岸や東エルサレムの占領は国際法違反だとして、できるだけ速やかに撤退すべきだとする勧告的意見を出しています。また、ICC(国際司法裁判所)はイスラエルのネタニヤフ首相らの逮捕状を請求しています。

こうした中、パレスチナの平和に対する支持を表明するため、そして広島の経験を共有するため、2024 年 8 月 6 日の広島市平和記念式典にパレスチナ国代表を招待するよう、広島市長に強く求めます。

広島市は、虐殺を続けるイスラエルは招待しています。ところが、パレスチナについては「日本政府が国として承認していない」という理由で招待していません。

しかし、広島市は、例えば、日本政府が承認していない朝鮮(金正恩氏)を招待しています。日本政府自体、パレスチナの国連加盟は支持していますし、大使館に準じるパレスチナ代表部が日本にあります。招待しない理由は全くありません。

このままでは、平和都市広島がイスラエルは招待し、日本政府ですら国家として認める方向のパレスチナを招待しないことになります。広島がむしろ、日本政府以上にイスラエル寄りだということを世界に示してしまいます。

広島市は来年の式典から招待方法を見直す、としています。しかし、パレスチナを招待するのは「今」です。来年では遅いのです。長崎はパレスチナを招待することを決めています。長崎にできて広島にできないはずはない。

これ以上の悲劇を止めるために、広島市が平和活動を先導するべきです。以下、要請します。

広島市が8月6日に平和記念公園で主催する平和記念式典にパレスチナ国の代表を招待すること。

連絡先 佐藤周一 広島市安佐南区中筋1-18-27-203 広島瀬戸内新聞内
090-3171-4437 hiroseto2004@yahoo.co.jp

アジア大会30年、広島が権威低落の米国忖度加速で自滅して良いのか？

2024年現在、パレスチナにおけるイスラエルによる侵略・虐殺(実際はガザだけではない)を放置する一方で、ロシアは非難し、ウクライナ支援という、米国政府のダブルスタンダードは、さらに米国の権威を低下させています。

米国国内でも経済格差が拡大・放置され、矛盾・不満が蓄積しています。正直、インド、中国と言ったアジア諸国が勃興する中で米欧の相対的な地位の低下は避けられなかったが、パレスチナ問題でのダブルスタブりはさらに傷を深くするでしょう。問題は、現在の広島の平和行政が過度に米国忖度に傾いていることです。

■窮地に立つ米国、広島に赦してもらって巻き返し？

さて、米国の三大黒歴史といえば、1, 先住民虐殺 2, アフリカ系(黒人)奴隷問題 3, 核兵器使用でしょう。

事実を率直に申し上げますと、中国もロシアも朝鮮も核兵器は持っているけど使ったことはない。ところが、米国は二度も使っているのだ。これは、動かせない事実だ。

そうした中で、米国はG7広島サミットという機会になんとか、核兵器使用を黒歴史でなくそうとしている。

具体的には米国側のきちんとした謝罪も反省もない形で広島にうやむやにしてもらうことです。

それなら、核兵器使用なんてたいしたことなかった、ということにできる。

広島は平和教材から G7 広島サミットを前にしてはだしのゲンや第五福竜丸を削除しました。諸説あるが、G7広島サミットでお見えになるバイデン大統領のお目を汚さぬように、と見るのが素直な見方です。

そして、広島サミット2023で、採択された広島ビジョンも結局、米国の核兵器保有を正当化するものでした。否、オバマ政権が一時期積極的だった核兵器の先制不使用すらない酷いものでした。このように、米国にゴマをする宣言を広島で出させたことに意味があります。そして、サミット一年後の2024年5月にバイデンは核実験を行った(というニュースをリークした)。完全に広島はバイデンに舐められています。

また、米国政府は、2023年広島市に「パールハーバー記念公園」と平和記念公園の姉妹協定を申し込み、松井市長は議会にも諮らずに、同年6月末、この協定を結んでしまいました。2024年度からは関連予算が執行されています。米国政府はヒロシマ・ナガサキと言う原爆使用はまったく反省も謝罪もしていない。その状況で広島が米国政府と結んでしまうということは、米国政府の大きな外交的勝利です。すなわち、極論すれば、今後の核兵器使用について広島からお墨付きをもらった、ということになってしまいます。

■米国大喜び、そして口中朝等にも暴走の口実与える「米国忖度」

そして、広島市は2024年の平和記念式典にイスラエルは呼ぶ一方で、ロシア・ベラルーシは2022年、23年同様、呼ばない。そしてイスラエルに侵略されているパレスチナは呼ばないという。

まさに、米国政府が大喜びの対応です。日本政府ですら、いまや、パレスチナの国連加盟は支持している。先日、イスラエル人入植者＝侵略者への経済制裁も決めています。広島市は、日本政府以上に米国に忖度しているのではないのでしょうか？ いわば「米国忖度のHIROSHIMAへ」変質です。岸田総理でなければこういうことはなかったろう。広島でサミットを開かないからです。安倍さんでも高市さんでもあり得なかったでしょう。

そして、今後は「核兵器を使用した米国すら広島に許されるなら俺たちだって核を持っても、軍拡をしても許されるだろう」という方向で、ロシアも中国も朝鮮もインドもパキスタンも、今渦中のイスラエルも、加速しかねません。

■G7 広島サミット記念館建設でアオギリ衰弱 湯崎英彦知事の失態

そして、湯崎英彦知事も、平和記念公園の原爆資料館の近くに「G7広島サミット記念館」を建設。ところがその作業中に被爆アオギリの根っこを切ってしまうという失態で、アオギリが衰弱している。時代に逆行した米国忖度で広島の価値が暴落している現状を表しているようにも思えます。

■米国の権威低下の今こそ、アジア大会1994に立ち返ろう！

さて、30年前の1994年、広島広域公園をメインに広島アジア大会が開催された。いわゆる1993年のオスロ合意でパレスチナ和平が盛り上がったかに見える中で、パレスチナ代表も来られた。これからはアジアの時代だ。当時の平岡敬市長や藤田雄山知事もそういう雰囲気だったのです。今の、マスコミや広島市、広島県の、いわば、米国・欧州に偏った雰囲気とは正反対でした。

次期米国大統領にトランプがなろうか、ハリスがなろうか、米国の権威低下は避けられません。たしかに米国、とくに民主党は、人権・環境を表面重んじてきましたが、他方で戦争しまくり、経済侵略しまくりでした。とはいえ、米国の権威の低下により、とくに女性の人権、あるいは環境と言った価値が米国の道連れで低下しかねない懸念はあるのも現実です。米国の権威低下の中で、どう一人一人の権利を守っていくか、環境を守っていくか。そういう議論を発信していくこと。それから、日本だけでなくパレスチナでも中国でも米国でも、世界的に豪雨、熱波、そして地震や火山など自然災害が大きな犠牲を起こしています。食料や水の安全保障に暗雲が垂れ込めている。そういう部分で世界が協力していき、信頼醸成を図っていくべきです。

他方で、足元から広島を政治を市民、県民の手に取りもどしていく。その取り組みが必要ではないでしょうか？

■平和行政の今後、大いに議論すべき時

平和行政の今後について、もう一度大いに議論すべきです。松井市長は市民社会、と言うことを良く強調されます。それなら米国政府と結ぶのではなく、既存の平和首長会議を強化すれば良いだけです。ホノルル市も平和首長会議に入っている。核兵器禁止条約推進で頑張っている。自治体同士のスクラムを強めて、国家の指導者に迫っていく。それが地方行政としての平和運動の王道です。

例えば、平和記念式典にはすべての国・地域を招待するという原則に立ち返る。ただし、核兵器禁止条約に入っている国とそうでない国、とくに核保有国で侵略戦争を行っている国とは対応に変化をつけるべきです。核兵器禁止条約に入っている国・地域こそ招待し、前後の日程で今後のことを話し合う作戦会議的なものを開催する。他方で、核保有国、特に侵略戦争を行っている国については批判するが、他方で、将来を担う若手政治家に広島に勉強に来てもらい、将来の変革へ種をまく。こうしたことも含め、大いに議論していくべきでしょう。

さとうしゅういちと広島瀬戸内新聞は「あなたの手に広島を政治を取り戻すヒロシマ庶民革命」を進めて参ります。

1. 署名運動などで、広島を政治に働きかける
2. 勉強会の開催で有権者の意識変革を促す
3. 広島県政における政権交代

■椋大樹先生「檻の中のライオン」講演会 WITH お好み焼き

権力のある人をライオンにたとえ、権力者の暴走への対処法を皆様に全国1000か所でお話ししてこられた弁護士椋大樹先生。

今回は、お住いの地元・祇園でお好み焼きを交えながら、椋大樹先生のお話をうかがいませんか？

お待ちしております。

日時 8月31日(土)12時～15時

場所 鉄板焼き居酒屋じゅげむ 広島市安佐南区祇園2-2-2

料金 2500円(クリアファイル、お好み焼き、ウーロン茶付)

椋大樹先生の「檻の中のライオン」講演会を「じゅげむ」にて開催予定です。お好み焼き＋ウーロン茶＋クリアファイル付きです。お待ちしております！

ビールなども飲んでも構いませんが(笑)、それは別料金です。人数確認の必要があるため、お申し込みは8月27日(火)までに佐藤まで。090-3171-4437 hiroseto2004@yahoo.co.jp